



ほけんだより

平成27年7月号
明照保育園



6月の欠席状況は、急な発熱で欠席する子が多くいました。その他では、ヘルパンギーナ(幼児1名)、結膜炎(幼児1名)が報告されました。

予防は、やはり早起き・早寝・朝ごはん・うがい・手洗いですね。生活リズムを整えて、疲れをためない身体づくりをしましょう。

6/15(月)の「おしらせくん」や「すくすくだより」でもお知らせしましたが、夏の遊びを楽しむためにも皮膚のトラブル対策法についてよくご覧下さい。

【気をつけよう 夏の病気】

★ヘルパンギーナとは・・・夏かぜの一種で、のどの奥に水疱ができ高熱が出ます。水疱がつぶれると痛みがあり、食欲が無く不機嫌になります。



★咽頭性結膜炎とは・・・夏かぜの一種で、発熱、のどの痛み、結膜炎などの症状があります。「プール熱」という別名がありますが、規程の塩素濃度を保ったプールの水では感染しません。

かかってしまったら・・・汗と高熱で脱水症状を起こしやすいので、水分補給を心がけましょう。

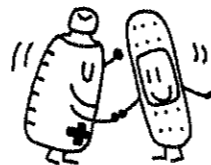
高熱が出たら医師の診断を受けましょう。

調理に工夫を・・・のどの痛みが激しい時は、かまずに飲み込めるものにしましょう。痛みを刺激するような熱いもの、冷たすぎるもの、酸味のあるもの、塩味のきついものは避けるようにしましょう。



★水いぼとは・・・ウイルス性のイボで、硬くてつやがあり、真ん中がくぼんでいます。脇の下、脇腹、股の付け根など、皮膚と皮膚がすれ合うところによくでき、イボがつぶれるとうつります。接触により直接感染します。タオルなどから間接接触もします。

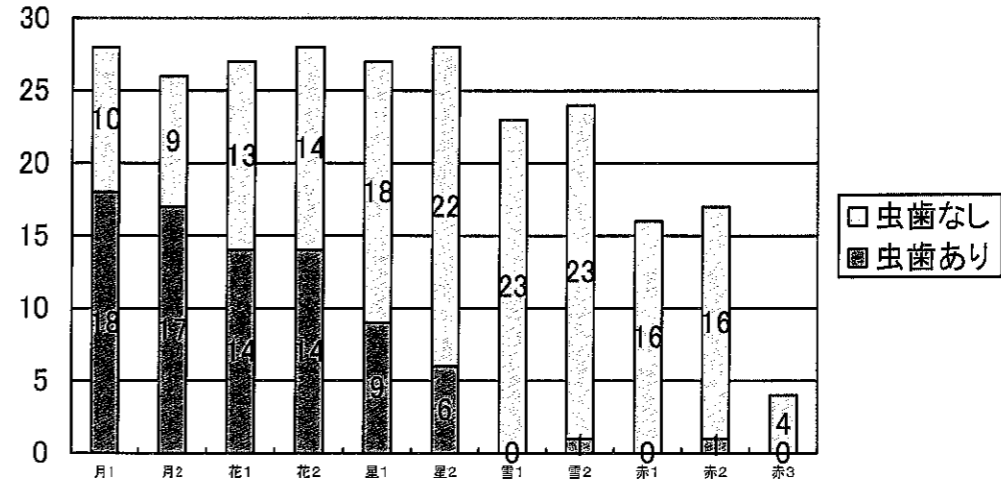
うつってしまったら・・・放っておくと体中に広がります。ひとつでも水いぼを見つけたら、すぐに病院へ行きましょう。(時間をかければ自然に治りますが、集団生活をしていると他の子にうつしてしまうことになります。)



【歯科健診での結果】

★虫歯のない子は247人中168人でした。

下記のグラフは虫歯のない子とある子の数をクラス別に示し、相対的に表したものです。



～虫歯以外の診断～

- ① 開咬(3名): 前歯の上下がかみ合わない。指しゃぶりやおしゃぶりを続けることが原因になることがほとんど。
- ② 反対咬合(5名): 下の前歯が出ている。受け口。切端咬合のひどいもの。
- ③ ゆ合歯(4名): 先天的に2本の歯が1本になって生えている。特に問題はないが、普通の歯よりギザギザしているため、虫歯になりやすい為注意が必要である。
- ④ 先天欠如(4名): 生えてくるはずの歯が、先天的に欠如している。
- ⑤ サホライド: 進行止め。歯医者で進行止めを塗ってもらっている。
- ⑥ 上唇小帯(7名): 上唇の中央から歯茎に伸びる筋が歯の近くに付着している。

★山本先生から★

かみ合わせに問題があると、将来小児の肩こりや腰痛などを起こし、生活にも影響することがあります。治療には適切な時期がありますので、歯科のホームドクターをもち定期的な健診をおすすめします。しかし、子どもの歯は、乳歯が生えたり抜けたり、永久歯が生えたりと歯の数やあごの発達により、かみ合わせも変化していきますので、乳歯のうちは様子を見ていけばよいでしょう。

